

‘ό κόσμος, ἀλλοίωσις. ‘ό βίος, ὑπόληψις.’

LIVE: THE YELLOW MONKEY 1991.8.4 大阪 W'OHOL

1991.8.5 神戸 キンジョージ
8月4日W'OHOLでTHE YELLOW MONKEYをきいていて思い出したのが映画「エイリアン」を観たときのことだった。キューブリックのSF映画「2001年宇宙の旅」が好きで、そういう映画かと思って映画館に入ったら、なんと苦手の恐怖映画だったという…。見てられないところが多くて、終ったたら腰がガクガクしていた。それと知らずに観たら、直視できない恐い世界だった。

THE YELLOW MONKEYも、それとは知らずに(ティラザウルスと一緒に)やるからきっとこうにならうとしていたので、きいたら、それまで直視するのを避けていた世界だった。

8月5日千錦ジョージのTHE YELLOW MONKEYのライブの前に、近くの映画館で「羊たちの沈黙」を観た来到了ねー。ものすごく恐かった!「エイリアン」と同じで怖い映画らしいということは知ってはいたけど、それでもやっぱり怖かった!でも「エイリアン」のときみたいに下に向くことはなくて、はじめからおわりまでずっと目をそらさずにいた。そして自分がこういつのを直視できるようになっていったことを知った。ライブバーカーの「ウーヴィング・ワールド」と「滅滅の愛」を一気に読み切れたことも、その証明になるかもしれない。

「羊たちの沈黙」を直視しつづけて30分もしないうちにTHE YELLOW MONKEYのステージを見るというのではなくなかの展開だった。「羊たちの沈黙」を直視して獲得したばかりの人間感(人間観ではなくて)でステージを直視するわけだから。ひきすり込まれると血がドロッピ流れてるね、THE YELLOW MONKEYの世界は。で、その世界をも直視できるようになっていたことを知った。「羊たちの沈黙」も完結まっている。THE YELLOW MONKEYも完結まっている。次の2バンドを見る余力が残っていないでTHE YELLOW MONKEYを見ただけでライブハウスを出た。

「羊たちの沈黙」の原作(このところ)



LIVE: ティラザウルス, THE YELLOW MONKEY 1991.8.6 京都BIG BANG

この日はティラザウルス, THE YELLOW MONKEYといつもやめて、そのせいかTHE YELLOW MONKEYには、人間の、というよりも生き物の生暖かさと粘っこさを強く感じた。もう醜いくらいに美しいよね、あのヴォーカルの人の生き物はティラザウルスは人間とか生き物を感じさせろんじゃないで、醜くても宇宙の暗黒を見てくれる。で、現在の私にはティラザウルスのほうがあってるんじゃないか…。

LIVE: THE WAIATS 1991.7.31 新宿アンティック

3月29日以来9回目のライブ。そのなかで一番よかったのが4月13日のライブなのだけれど、この日はそれに匹敵するか、もしくはそれを凌ぐものだった。第一にパワフル。第二にヘヴィ。第三にロマンチック。3曲目の「ダイヤモンドアレー」から身動きができないくらいステージにひきつけられた。ステージの上に無駄なもの、余計なものはなくひとつもなかった。機材、照明器具、紙コップ、タオル…、それに演奏でいつもたちのTシャツの色やロゴでさえすべて必要なものに思えた。すばらしい演奏といつものには、それらのものすべてに意味を与える力がある。

「ダイヤモンドアレー」にしても「サブウェイ・ローター」にしても日常生活からできた歌、日常生活から感じたものからできた歌なんだけれど、ステージの4人には、その音楽にはそういう日常生活が全くちこまれていない。そこに見えるもの、感じられるものは完璧にTHE WAIATSの世界。それがステージから射撃し出されてくる。

8月には8/2, 8/7, 8/18, 8/20と4回もライブがあり、どれもよかったです! とくに8/2と8/18は!!!

37号 1991.8.23

文・編集・発行
恋 怪子

LIVE: THE PUNK ROCK 1991.8.2 吉祥寺バウスシアター

PUNK ROCK MOVIE」という映画の上映記念ライブで全部で7バンド。JOLLY ROGERS, THE ZETT, ゲストとやらのTHE STRUMMERS, THE WAIATS, NEVER ENDING HOLIDAYS, RADIO HACKER, GYMNOPEDEAの7組。THE STRUMMERSも、あとの「いかにもパンク・バンド」といった名前そのバンドもちょっとパンクじゃない。パンクロックを外側からなぜているだけ、それなりに格好をしていろいろだけ、いくらかフリーフレッシュをしたって、中指なんかたてたってパンクのパワーは伝わってこないよ、あんなんじゅ。

映画「D.O.A.」のラストシーンのジョニ・ロットンのあの両眼から感じられるものひとかけらもない。見に来た大部分の子どもたちも SEX PISTOLSやTHE CLASHの曲をやるとワッともりあがるけど、あとは中途ハンパ。NEVER ENDING HOLIDAYSのヴォーカルの人が「今日はシラケた客だぜ」といってたけど、シラケさせてるのは誰なの?

それにくらべてTHE WAIATSのパンクぶりはどうだ! ジョニ・ロットンのあの両眼にも負けないものを出している。私のうしろの席にいたパンク・フレックを王めた男の子たちが、ステージに出てきたTHE WAIATSを見て「グラムなんじゃねーの?」なんて言っていたようにいかにもパンクの格好じゃないんだけど音楽にはパンクといえらるのがギッシリ。終ったらあちこちから拍手があふってうしろの男の子たち「拍手されたこのバンドだけじゃねーの」って。パンクじゃないけど、皮ジャン、ジーンズ、リビントン・ビシッヒキでいるRADIO HACKERもスタイルだけ、最後にやったGYMNOPEDEAも7月31日のときとおんなじで、つまりない。腕の刺青の方がよっぽど利害的だよ、あれじゃあ。

LIVE: 根性ロッカーズ 1991.8.16 新宿アンティック

情報誌に根性ロッカーズ(ZIGGY+モロタ+ギル)で載っているを見てモロタがやるなら何んでも行く! どんなバンドだか何をやるのかなんにもわからなくて行く! と即決めた。

ZIGGYといふのは、解散したというメリーゴーラウンドのヴォーカルだった人で、このセッションバンドでもヴォーカル、ギターは2人で1人はWAR PIGSの人モロタがギルでジョニー・デンシャーズの人、ベースがDOOMのモロタ、ドラムはやはりメリーゴーラウンドだった人。ライブハウスでは前の方でくことはめったにないけど、この日は竟を決してモロタのすぐ前まで行った。カバー曲ばかりで時間も30分もなかたけど、ものすごく楽しかった。ベースがサイコ! はあたりまえなんだけど、ギター2人もヴォーカルもドラムもすごくよかった。みんなに楽しくてすごい「BORN TO BE WILD」は映画「レンジラード・カウボーイズ・ゴー・アメリカ」で見たとき以来だ。ヴォーカルの人がステージから射った木鉄砲砲の木はかかし、とびほねて、3人にはつまとはざれるし、楽しかった!

SEAL:X.ミラクレックス

Xのお店 JEALOUSY(アルバムのタイトルJEALOUSYにちなんで)でHIDEの描いたイラストのTシャツを買ったら、このシールを2枚くれた。Xの字に虫とバラの束がからみついで、それにバラの花が2輪。

JEALOUSYの狭い店内には上から下まで、いろいろなXのグッズがギッシリ。逛観デス。JEALOUSYは新宿西口、小田急デパートと京王デパートのあいだのモザイク通りといふ小さなお店が1つあります。

期間は9月30日まで。



8月18日原宿リードのライブでもらったシール。ジ・ヘンドリックスがミラクレックスをかじているという…。

この日のミラクレックス、ギターがよかった! 雰囲気なく弾いているみたいなのに、実にゆたかみとれちゃった。

次のライブ %23
TAKE OFF 7